

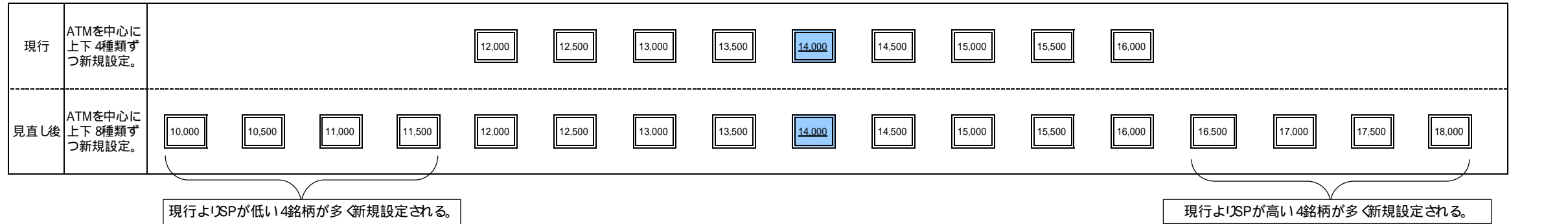
権利行使価格の設定方法の見直し(具体例 :平成20年 7月限。数値は全て仮定値)

権利行使価格 (以下「SP」という) の新規設定時より、上下4,000円幅の設定になることで、これまでよりも幅広い相場変動のヘッジが可能となる。

平成20年 2月 8日 (平成20年 7月限の取引開始日) 前営業日の日経平均株価終値 :13,838.17円

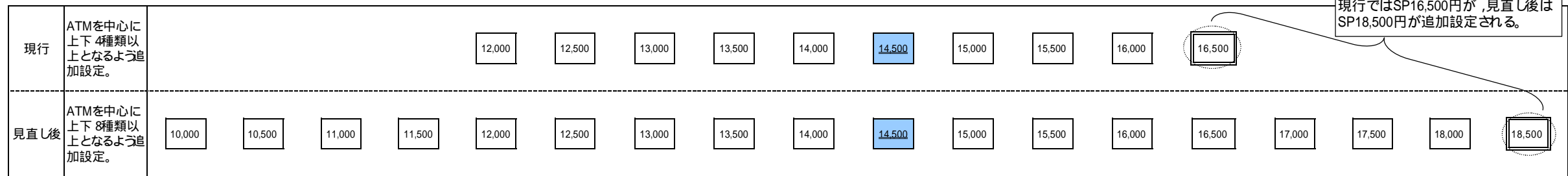
ATM = 14,000円

ATMとは、日経平均株価に最も近接する権利行使価格をいう



2月12日 (相場変動に伴いATMが変化) 前営業日の日経平均株価終値 :14,300.23円

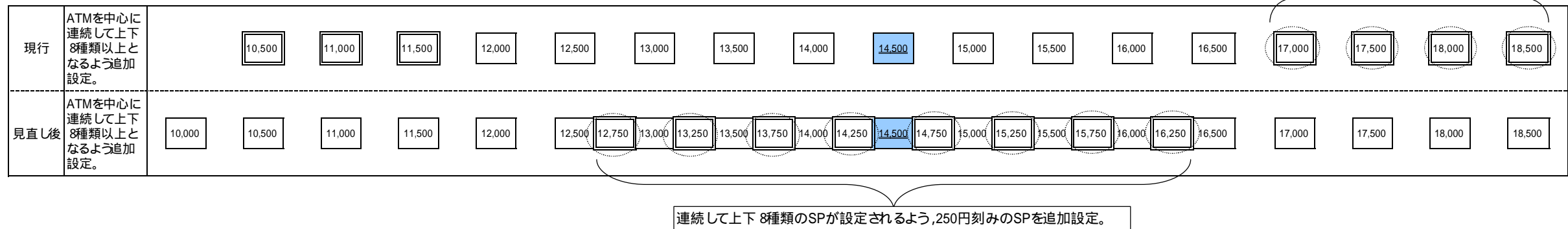
ATM = 14,500円



SPの水準に関わらず250円刻みにより設定されることで、これまでよりもきめ細かいヘッジとしての利用が可能となる。

4月10日 (取引期間が3か月となった時点 (20年 4月限の取引最終日)における追加設定) 前営業日の日経平均株価終値 :14,505.78

ATM = 14,500円



4月11日 (相場変動に伴いATMが変化) 前営業日の日経平均株価終値 :14,715.51円

ATM = 14,750円 (ただし、現行」においてはATM = 14,500円)

